

<ふくしま地域交流型ワーケーションモデルツアー開催レポート>

福島県「地域プロジェクト共創事業」の一環として、福島が抱える地域課題と向き合い、地域のキーパーソンとともにその解決策を探る1泊2日の地域交流型ワーケーションモデルツアーを実施しました。このツアーは、地域の現場をフィールドワークしながら、福島県内のコワーキング施設を体験する形式です。全4回の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会津エリア、中通りエリアで全2回の実施となりました。

【第1回ツアー 会津編】



①「人と種をつなぐ会津伝統野菜」 会長 長谷川 純一さん（会津若松市）との交流

会津若松市のコワーキング施設「Kaizen」にて、地域のキーパーソンとして、「人と種をつなぐ会津伝統野菜」会長の長谷川純一さんから、会津伝統野菜の現状と課題、今後目指すべき未来についてプレゼンテーションしていただきました。長谷川さんには収穫されたばかりの会津伝統野菜を会場に持ち込んでいただき、参加者のほとんどが会津伝統野菜に初めて触れる貴重な体験となりました。

また、昼食をとった「Teppanyaki あいづ家」では、長谷川さんが育てた会津伝統野菜を目の前で調理していただき、参加者の皆さんに直接味わっていただきました。



②IORI 倶楽部 事務局長 金親 丈史さん（三島町）との交流

会津若松市から三島町にバスで移動して訪れた先は、IORI 倶楽部が運営する古民家再生ワークラボ「早戸本村」。IORI 倶楽部は、地域において若い世代からアクティブシニアまでが「生涯活躍できるまちづくり」を目指して活動されています。金親事務局長からはワーク・フード・フォレスト・スペースの4分野別に運営する「ラボ」についてプレゼンテーションしていただき、参加者とともに「地域の付加価値を高めていく方法」、「移住・定住の促進につながるアイデア」などについてディスカッションしました。

その後、金親事務局長による案内のもと集落を見て歩きました。夕食では、東京から只見町に移住して古民家レストランを営む平子シェフから地元食材を使った料理を提供していただき、三島町で活動する地域おこし協力隊や東京大学で集落の研究をしていた方からも話を伺うなど、活発な意見交換を行うことができました。



③ ツアー参加者から地域のキーパーソンに向けたプレゼンテーション

ツアー最終日となる2日目は、磐梯山のふもとにある「Living Anywhere Commons 会津磐梯」に移動。参加者はチーム A・B に分かれて、前日に交流した地域のキーパーソンが抱える課題を解決するためのプロジェクト構築に向けたワークショップを行いました。

まずは施設スタッフからコワーキングスペースの機能性について説明していただき、参加者の皆さんはどのようなスタイルでワーケーションができるのかイメージを膨らませていました。その後、外からの視点で福島地域課題について考え、最後には、参加者が考案した課題解決プロジェクトを地域のキーパーソンに向けてプレゼンテーションしました。



参加者からは、「会津伝統野菜の栄養や特徴を数値化し、その魅力を可視化させるべき」、「現状把握→GAP の洗い出し→課題の優先順位付けの3つのSTEPを設定してプランコンテストをするのはどうか?」といった具体的な提案がありました。最後に、プレゼンテーションを受けた地域のキーパーソンのお2人から次のとおりコメントをいただき、ツアーを終えました。

○「人と種をつなぐ会津伝統野菜」 会長 長谷川 純一さんからのコメント

皆さんからいただいたご意見は、必ず生産者の仲間で共有させていただきます。皆さんからの「会津伝統野菜を数値化する」といったご提案について、その必要性を強く感じました。栄養や特徴を数値化し、より定義を明確にする、そうすることでブランディングもできるし、次の世代への継承もしやすくなるだろうと思います。私は東京で物販することもあるので、日本橋のミデッテやマルシェなどでまた皆さんと会えたらうれしい。皆さんも会津に来るときは是非また声をかけてください

○IORI 倶楽部 事務局長 金親 丈史さんからのコメント

今回、皆さんから私たちの活動の課題について切り出してもらったこと、とてもうれしく思います。勇気を持って指摘してくれたんだとも感じました。私も改めて「そこがやっぱり課題だよな」と思った部分がありました。私たちの取組は、奥会津の山の活性化からスタートし、気づいたらたくさんの方が関わって、活動の幅も広まって今の状態になったんです。これは、いわばオペラの舞台の話だと思っていて、ここでまた皆さんのアイデアをいただいて、また違ったハーモニーが生まれてくることを期待しています。

【第2回ツアー 中通り編】



①都市再生推進法人テダソチマ 代表 大木和彦さん（須賀川市）との交流

第2回目となるツアーでまず訪れたのは須賀川市。市からの指定を受けて「まちづくり」に取り組む大木さんに市街地を案内していただきました。

大木さんが設立に携わった文化交流施設「風流のはじめ館」や「須賀川市交流センター tette(テッテ)」を訪問したほか、市内の空き屋物件を見て周り、具体的にどのようなリノベーション方法があるかなど簡単なディスカッションを行いました。



②白河だるま総本舗 渡辺だるま店 十四世 渡邊 高章さん（白河市）

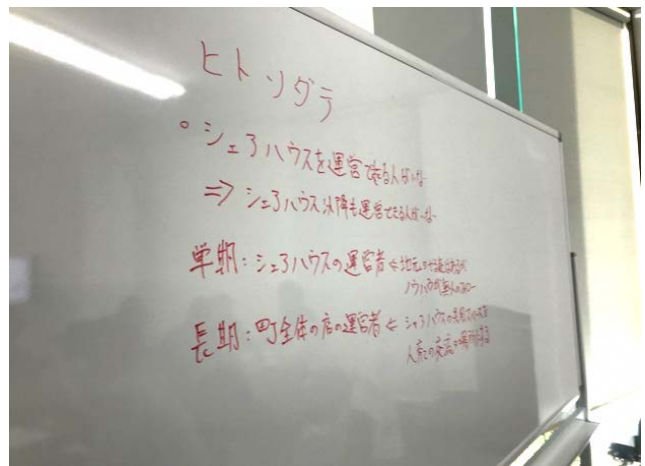
須賀川市から白河市内にバスで移動し、訪れた先は白河だるまの工房です。ここでは、十四世の渡邊さんから、参加者からの「白河だるまとは？」といった率直な疑問に答えていただき、現在、駅前に建設中のオリジナル観光スポット「だるまランド」の展望についてもお話いただきました。参加者は、絵付け体験をとおして、どういった工程でだるまがつくられるのかを理解し、白河だるまが今以上に活性化していくためのアイディアを考えました。



③ツアー参加者から地域のキーパーソンに向けたプレゼンテーション

2日目は白河駅前のコワーキングスペース「ナカマチ 24」にて、第1回目のツアーと同様、2グループにわかれてのディスカッションを行いました。テダソチマと渡辺だるま店のそれぞれの取組をプロジェクト化するため、参加者の皆さんは頭を悩ませながらパワーポイントを駆使してプレゼンテーション資料の作成に励んでいました。

今回のツアーでは、参加者により多くのコワーキングスペースを体験していただくため、午後から同じ白河市内の「サミットスペースパルレット」に移動。参加者から地域のキーパーソンに向けて、考案した課題解決プロジェクトを提案していただきました。



参加者からは「マチソダテに加えて、ヒトソダテも合わせて取組を進めていくことが重要ではないか」、「観光誘客を意識するなら、子どもが遊べる要素を生み出し、家族連れで来てもらうこと、インスタ映えスポットを設定して若者に来てもらうことができれば」といった提案をいただきました。最後に、プレゼンテーションを受けた地域のキーパーソンのお2人から次のとおりコメントをいただき、ツアーを終えました。

○都市再生推進法人テダソチマ 代表 大木和彦さん（須賀川市）のコメント

皆さんからの発表で、「ヒトソダテ」というキーワードをいただいたこと、感動しました。今、自分の頭の中では、皆さんに具体的にお願ひしたいことがすでにぼんやりと浮かんでいます。私たちのまちづくり会社をどう自走させていくか、弊社として空き家バンクに取り組むことで、行政と移住を考える人の間に立てたら、そんなことも考えています。移住に至るまでのステップにはいくつもの段階があり、行政ではその段階ごと担当部署も枝分かれしていきます。その繋ぎ役を担うことができたらという思いはずっとあるんです。今回の皆さんの発表を参考にして、皆さんにどんなことが頼めるのか、これからもご相談させてもらいたいと思います。

○白河だるま総本舗渡辺だるま店 十四世 渡邊 高章さんのコメント

まずは、この短い時間で資料データを作っていただき、ありがとうございました。「白河だるま」に関わる人も高齢化が進んでいる中、こうやって外の視点から若い皆さんに意見をもらえることは貴重な経験でした。皆さんの意見も参考に、これからオープンする「だるまランド」で白河をますます盛り上げていきたいと思っています。